会員便り

大分県中津、耶馬渓での「第55回全国ホタル研究会」終えて

特定非営利活動法人耶馬渓ほたるの会　松葉 明子

初夏の風物詩「ほたる」の頃、2024年６月７日・８日・９日の３日間、大分県中津・耶馬渓にて第55回全国ホタル研究会大分県中津・耶馬渓大会を開催致しました。全国各地から会員55名、地元参加者・関係者を含め200名が参加致しました。多くの皆様のお力添えにより無事に当大会を終える事ができました。

令和５年の３月より主管を務めさせて頂きました特定非営利活動法人耶馬渓ほたるの会会員と中津市・中津耶馬渓観光協会・中津教育委員会・中津市しもげ商工会にて当大会開催に向けて取り組みました。また、後援には、大分県・国土交通省九州地方整備局山国川河川事務所・中津市社会福祉協議会・NPO法人耶馬渓の自然と景観を守る会・耶馬渓ライオンズ・大分合同新聞社・NOASFMにもご協力頂きました。大分県では、初めての大会開催でしたので心配や不安もありましたが、有意義な素晴らしい全国大会にする事を目指して会員一同・関係者共に力を合わせ頑張りました。

初日の６月７日（研究発表会　第１部）中津市内ヴィラルーチェにて、中津南高等学校吹奏楽部の演奏で幕を開け、特定非営利活動法人耶馬渓ほたるの会、松葉明子よりこれまでの19年間の活動を通じて「蛍の光と歩んだ軌跡」を発表致しました。その後、中津南高等学校耶馬渓校（中山博子教論）・城井小学校による「ゲンジボタルが舞う里つくりのために」と題して、学校設定科目「耶馬渓学」での研究とゲンジボタルでつながる地域について研究発表を行いました。今回特別講演と致しまして、栗林慧氏（生物生態写真映像作家）「ホタル生態撮影の苦心と成果」をご講演頂き、たくさんのパネル写真や映像そしてホタルの話に参加者の皆さんは、熱心に聞かれていました。栗林先生のホタルへの思いがどれほど凄く、情熱にあふれていたかと感じました。同時開催と致しまして山口県下関市豊田町「ほたるかごプロジェクト」によるほたるかごアート展を開催、入口や会場内にもほたるかごが飾られイルミネーションもとても素敵でした。「蛍籠」の材料は、麦わらで、麦の花言葉「希望」を多くの方々に希望を届け交流の輪を広げて行きたいと今回ご協力ご参加頂きました。

第１部終了後、懇親会が同会場で行われ、中津市長のあたたかい歓迎挨拶や市議会議長のご挨拶を頂き、二胡・シンセサイザー（宇佐）の演奏やアコースティックギターの演奏と歌（熊本）にて会場が和み、全国の会員の皆様と地元関係者など150名参加の中、お話も弾み楽しい懇親会となりました。

２日目の６月８日（研究発表会　第２部）に、耶馬渓の旧山移小学校体育館にて行われました。特別講演　吉岡英二氏（関西国際大学名誉教授）「中津市終末処理場でのゲンジボタル飼育事例」では、吉岡先生は、ケガをされて会場には来ることができず、代理人の同会社（キュウセツAQUA）中津事業所の浅田政喜様より、吉岡先生の発表資料にてプレゼンテーションを行いました。質疑応答に対しては、携帯にてご返答頂き、色々とご興味を持たれた方々もいらっしゃいましたが、直接お会い出来なかった事がとても残念でした。そして午前・午後と全国ホタル研究会

会員の皆様の発表がありました。様々な形でホタルに携わってきた皆様の積み重ねてきた努力を感じ、改めて地域における自然環境の大切さへの思いが深まりました。大会旗は、次回の開催地が決まっていなかったため、事務局長中山歳喜さまへお渡し致しました。

「第55回全国ホタル研究会大分県中津・耶馬渓大会」終了後、耶馬渓ほたるの会のメイン活動の「第19回天までとどけほたるコンサート」が開催されました。地元有志による地元特産の鮎の塩焼きなど10件ほどの出店が並びイベントを盛り上げてくださいました。今年は、久留米龍神太鼓による迫力あるパフォーマンスと糸島から子育てシンガーソングライターmonさんによる優しい歌声に来場者の方々から、「心を打たれ感動でした。」ありがとう！の感謝のお言葉を頂き、とても嬉しく最後に歌った「蛍」には、私も涙が止まりませんでした。感動と感謝のコンサートとなりました。コンサート終了後は、マイクロバスにてホタル観賞に２か所ご案内致しました。今年は例年よりもホタルの発生が早く、残念ながら、たくさんのホタルたちには会えなかったようでした。

３日目の６月９日は、日本遺産に認定された景勝地、自然豊かな「耶馬渓」、福沢諭吉先生に代表される歴史と文化の街「中津」の観光には、４名の方にご参加頂き、観光協会がご案内致しました。中津自慢の［はもしゃぶ］は、とても美味しいと食べて頂きました。また、久米島の方々は時間がなく当会員が観光案内をしましたが、喜んで頂けて本当に良かったです。全国ホタル研究会の皆様に出会えた事に心から感謝でいっぱいです。当大会に全国からご参加頂いた皆様、そしてご協力頂いた関係者各位にお礼申し上げます。

あとがき

私と「ほたる」との出会いは、20年前の夏！１匹の「ほたる」との不思議な出会いがはじまりでした。「ほたる」の頃開催する「天までとどけほたるコンサート」は、私たちの心の灯となり毎年たくさんの方々の笑顔を運んで来てくれました。本当に年に一度の神様からの贈り物です。この「天までとどけほたるコンサート」は、耶馬渓ほたるの会のメイン活動として毎年コンサート開催と共に環境保全や地域活性化をめざし、ほたる舞う今の風景を守り、多くの生き物と人が共生する環境を次の世代へとつなげるためにそして心豊かに暮らすことの出来るほたるの里づくりに会員の皆さんと一緒に頑張っています。今回のこの大会を通じて多くの方々に不思議な「ほたる」の魅力に触れて頂きたくまた、中津・耶馬渓の魅力を知って頂けたならとても光栄です。

今回当大会にご参加頂きました香港ホタル保護会の方より、とても有意義な時間を過ごし素晴らしいコンサートと自然、そしておもてなしに感動しましたなど、他の会員の方々からも嬉しいお手紙やメールを頂きました。最後になりましたが、これからも益々の全国ホタル研究会のご発展を祈念致しましてご挨拶とさせて頂きます。本当にありがとうございました。

第５５回全国ホタル研究会大会報告

１．研究大会の概要

（１）概要

全国ホタル研究会の第55回大会が令和６年（2024年）６月７～９日の３日間、大分県中津市にて開催され、全国各地から約180名のご参加をいただきました。大分県では初めての開催となりましたが、みなさまのご協力のもと、全国大会を開催することができました。ありがとうございました。

主催：全国ホタル研究会
主管：NPO法人耶馬渓ほたるの会
後援：大分県・中津市・中津市教育委員会・中津耶馬渓観光協会・
国土交通省九州地方整備局山国川河川事務所・社会福祉法人中津市社会福祉協議会・
中津市しもげ商工会・NPO法人耶馬渓の自然と景観を守る会・大分合同新聞社・
NOAS FM・耶馬渓ライオンズクラブ
協力：大分県立中津南高等学校・耶馬渓校・城井小学校

（２）会場

場　　所：大分県中津市 ヴィラルーチェ
同時開催：令和６年（2024年）６月８日（土）
第19回　天までとどけ ほたるコンサート
旧山移小学校体育館

（３）大会日程

６月７日(金)

全国ホタル研究会 研究発表（第１部）
場所：ヴィラルーチェ

12：30～　参加者受付
14：00～　開会式
歓迎セレモニー　中津南高等学校 吹奏楽部
主催者挨拶　遊磨 正秀（全国ホタル研究会会長）
歓迎挨拶　田崎 真佐恵（大分県生活環境部環境政策課長）
主管団体挨拶　松葉 明子（NPO法人耶馬渓ほたるの会理事長）
来賓紹介
14：30～　講演　「蛍の光と歩んだ奇跡」
松葉 明子（NPO法人耶馬渓ほたるの会理事長）
14：45～　研究発表　「ゲンジボタルが舞う里作りのために」
～学校設定科目「耶馬渓学」での研究と
ゲンジボタルでつながる地域について～
中津南高等学校 耶馬渓校・中津市立城井小学校

15：45～　特別講演　　　「ホタル生態撮影の苦心と成果」
栗林 慧（生物生態写真映像作家）

16：45～　質疑応答
第１部閉会挨拶　　NPO法人耶馬渓ほたるの会

18：00～　懇親会
二胡・シンセサイザー演奏　　帯金 真理子・森 孝良

同時開催

場所：ヴィラルーチェ
昆虫写真家　栗林慧　アトリエ展
山口県下関市豊田町ほたるかごプロジェクト　アート展
中津南高等学校耶馬渓校　ほたる研究展示

６月８日(土)

全国ホタル研究会 研究発表（第２部）

場所：旧山移小学校体育館

10：00～　会長挨拶　　　遊磨 正秀（全国ホタル研究会会長）

10：15～　特別講演　　　「中津終末処理場でのゲンジボタル飼育事例」
吉岡 英二（関西国際大学名誉教授
キュウセツAQUA株式会社中津事業所顧問）
浅田 政喜（キュウセツAQUA株式会社中津事業所）

11：00～　研究・活動発表　「福井県坂井市春江におけるヘイケボタルの生態」
井口 豊（長野県）
「「ホタル祭り」を継続するための提案」
千葉 豊（岐阜県）
「ゲンジボタルのメスは複数回交尾する」
並河 聰（滋賀県）
「ホタル屋内飼育設備の設計」
横山 正・佐野 和彦・野崎 貴司（静岡県）

12：00～　昼食

13：00～　研究・活動発表　「ホタルに与える農薬の影響」
山下 征夫・草桶 秀夫（福井県）
「稚内の状況」
阿部 勇（北海道）
「石川県、金沢市の状況」
新村 光秀（石川県）

15：00～　大会旗引渡式・閉会式

15：10～　全国ホタル研究会総会

16：00～　第19回　天までとどけほたるコンサート
飲食販売＆マルシェ
コンサート開催挨拶　松葉 明子（NPO法人耶馬渓ほたるの会理事長）
城島龍神太鼓
子育てシンガーmon

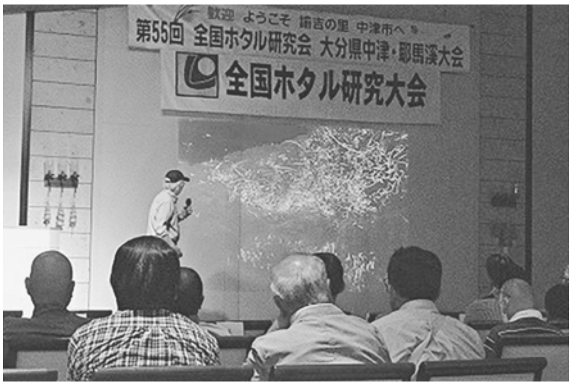
20：00～　ほたる鑑賞会（山国川水系山移川支川、耶馬渓ダム下流）

6月9日(日)

中津・耶馬渓観光案内（自由参加）

中津南高等学校 吹奏楽部の歓迎セレモニー

中津南高等学校 耶馬渓校・城井小学校の発表



栗林慧氏の特別講演

懇親会の様子

研究・活動発表の様子

大会旗の引き渡し

城島龍神太鼓の熱演

子育てシンガーmonの熱唱

第57回　総会報告

１．開会の言葉　　中山事務局長が開会の挨拶

２．全国ホタル研究会会長挨拶　　遊磨会長

※総会出席者数及び委任状提出者数の報告

出席者23名、委任状30名、合計53名で会則24条の規定により本総会成立

３．議長選出　　相良　淳司 氏（大分県）

４．議案審議

〔議案１〕令和５年度（2023年度）全国ホタル研究会事業報告

中山事務局長より、以下の通り事業報告が行われた。

①会則第４条に基づき、大会誌及び情報交換誌を以下の通り発行した。

令和５年（2023年）７月１日　　　全国ホタル研究会誌第56号発行

令和５年（2023年）12月25日　　　全国ホタル研究会情報交換誌第46号発行

②会則第５条に基づき研究大会、第21条に基づき定時総会を、以下の通り開催した。

日付：令和５年（2023年）７月15日

会場：国立日高青少年自然の家

原案のとおり承認

〔議案２〕令和５年度（2023年度）全国ホタル研究会決算報告並びに監査報告

久村会計より、別紙の通り決算報告が行われた。

別紙１　令和５年度（2023年度）全国ホタル研究会決算報告並びに監査報告による。

榊原監事より、会計は適正に処理されているとの監査報告があった。

原案のとおり承認

〔議案３〕令和６年度（2024年度）全国ホタル研究会事業計画

中山事務局長より、以下の通り事業計画案が説明された。

①会則第３条及び第４条に基づき、会の目的を達成するために以下の事業を実施する。

・全国ホタル研究会誌第57号の発行

・全国ホタル研究会情報交換誌第47号の発行

②会則第５条及び第21条に基づき、以下の事業を実施する。

・研究大会及び定時総会の開催

・その他、会の目的達成に必要な事業

原案のとおり承認

〔議案４〕令和６年度（2024年度）全国ホタル研究会暫定予算

会則第34条に基づき、会の目的を達成するために暫定予算を編成し、執行した。

別紙２ 令和６年度（2024年度）全国ホタル研究会暫定予算書による。

原案のとおり承認

〔議案５〕令和６年度（2024年度）全国ホタル研究会予算

久村会計より、別紙の通り提案された。

別紙３ 令和６年度（2024年度）全国ホタル研究会予算（案）による。

原案のとおり承認

〔議案６〕第56回全国ホタル研究大会開催地の決定について

総会時は大会開催地が未定でしたが、その後、大分県別府市での開催が決定しました。

第56回全国ホタル研究会大分県別府大会は令和７年（2025年）５月30日～６月１日の予定です。

〔議案７〕全国ホタル研究会　役員改選

中山事務局長より、以下の通り役員改選案が説明された。

全国ホタル研究会役員名簿

役　名		変更後（新役員）		変更前（旧役員）
			氏　名	氏　名
会　長		○	遊　磨　正　秀	遊　磨　正　秀
副　会　長		☆	草　桶　秀　夫	水　野　正　秋
常務理事（事務局長）		○	中　山　歳　喜	中　山　歳　喜
理事	北海道地区	○	阿　部　勇	阿　部　勇
	東北地区			蔦　幹　夫
	関東地区			
	北陸・中部地区	☆	新　村　光　秀	草　桶　秀　夫
	近畿地区			西　野　伸
	中国・四国地区	☆	岡　本　勇	藤　本　信　男
	九州・沖縄地区	○	佐　藤　文　保	佐　藤　文　保
	前事務局長	○	佐久間　桂　祥	佐久間　桂　祥
会　計		○	久　村　敏　史	久　村　敏　史
監　事		○	倉　田　富　夫	倉　田　富　夫
		○	榊　原　薫	榊　原　薫

任期は2024～2026年度（○は留任、☆は新任）原案のとおり承認

５．閉会の言葉　　遊磨会長が閉会の挨拶